

(独)理化学研究所 山形 豊





理研の小型中性子源計画

- 陽子線、低エネルギー核反応Be(p,n)を利用
- 7MeV、100μAの商用加速器を利用
- 遮蔽が小型化(自己遮蔽可能?)
- 産業界との連携を念頭に開発
- 可搬型にも適応可能(?)
- 技術的課題
 - 高耐久性ターゲット(Be)の開発
 - 長寿命ターゲットの開発
 - 低放射化によるメンテナンスの容易化
 - 減速体の最適化
 - ・ 高フラックス化、短パルス化のバランス
 - Mesitylene を用いた冷中性子源
 - 小型・低コストな遮蔽体のデザイン
 - 複層型遮蔽をデザイン中



compact <u>N</u>eutron <u>S</u>ource



小型中性子源の可能性 小型の弱い強度で役に立つことができるのか?





E-2ポート: φ15cmの熱中性子ビーム 8x10⁴n/cm²/sec(1MW) 4x10⁵n/cm²/sec(5MW)

静止画撮影、CT再構築では充分役に立つデータの取得が可能







物質構造解析にも!

• 自動車産業、航空機/宇宙産業などでの利用が見込まれる。



- 具体的なアプリケーションに特化したイメージング手法の開発
 大型施設(デパート)←→小型線源(専門店)
- 計測手法や画像処理手法の開発
 - 供用利用されている施設では、大幅な改造は容易では無い
 - 頻繁な更新により手法確立を進める



小型中性子源に適した発生手法

- 電子線ライナック(光核反応)
 - 加速器は小型・高性能
 - ガンマ線の遮蔽(コンクリート3~4m厚が必要?)
 - プラズマ核融合管 比較的コンパクト
 - D-D反応
 - 発生中性子量(10⁸~10⁹n/sec)、密度が低い
 - D-T反応
 - 発生量は比較的多い(10¹⁰~10¹⁴)が、放射性物質(Tトリチウム)の取り扱いが問題
 - 重陽子線低エネルギー核反応(Be, Li)
 - 低エネルギーで中性子発生量を多く取ることが可能だが、加速器の放射化 が問題(メンテナンスが困難)
 - <u>ターゲットの寿命</u>
 - <u>陽子線 低エネルギー核反応</u>
 - 放射化物の発生が少ない(メンテナンスが容易)
 - 発生量が比較的多い(10¹¹~10¹⁴n/sec)
 - <u>ターゲットの寿命</u>



Be(p,n) Li(p,n)サイクロトロン ライナック



理研和光小型中性子源-Phase-I

- 加速器: 7MeV, 100uA, 出力0.7kW Q-magnet
- ピーク電流10mA, パルス幅30-200us, 20-200Hz
- RF電源: 300kW(peak) duty 8%
- 必要用力: 電力 40kVA, 冷却水: 75L/min
- 中性子発生量: 10¹²(n/sec)
- ビームライン:熱中性子ビームラインx1
- 検出器:中性子カメラ(ラジオグラフィー)
- 設置寸法:18mx3mx3.5m
- 遮蔽線量:1uSv/h(目標)









PHITS コードによる小型中性子源の性能予測と遮蔽設計



* M.R. Hawkesworth, Atomic Energy Review 15 2 (1977), p.169

** C.M. Lavelle, et al, Nuclear Instruments and Methods in Physics Research A 587 (2008) 324–341

9

Neutron and Gamma Source Data



RIFENeutron energy spectrum: Use TOHOKU Univ. data of 11 MeV* * for 7MeV by assuming linear relationship



** 東北大学 サイクロトロン・RIセンター 鎌田創 et al, 厚いターゲットからの生成中性子スペクト ルの測定-11 MeV陽子による^{nat}Be(p,xn)反応-, 2006年原子力学会春の年会 KUR次期中性子源WS 2013Jan18

Neutron and Photon Source Data

Photon data (from target) was based on the experimental data by J. Raisanen, et al * :

Absolute y-ray yields

Isotope	E_{γ}^{a} [keV]	Reaction ^{b)}	Absolute γ -ray yield ^{c)} [(μ C sr) ⁻¹]		
			7 MeV	9 MeV	
⁷ Li ^{d)}	429	2	4.33 (7)	2.23 (8)	
	478	1	3.59 (8)	2.09 (9)	
⁹ Be	3562	3	1.95 (8)	1.86 (8)	

Photon only generated from ⁹Be(p,α, γ)⁶Li when ⁹Be bombarded by proton with energy of 7.0 MeV, and the energy is 3.562 MeV

> $N_{\gamma 1}$ =1.95E+8 photons/(μ C sr)

The spin of 3.562 MeV state in ⁶Li means the angular distribution of outgoing photon must be isotropic in the center of mass * *

* J. Raisanen, et al, Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B28 (1987) 199-204

** W. B. Howard et al, Nucl. Sci. Eng, 2001

Second Second Carlo calculation with PHITS code



Moderator/Reflector/Shield calculation (thickness)

RIMEHMaterial: PE Thermal neutron: 1.0E-9 MeV~5.0E-7 MeV



Moderator with thickness of 4 cm has best moderation effect

KUR次期中性子源WS 2013Jan18



Moderator/Reflector/Shield calculation (height)



Moderator with height of 20 cm has best moderation effect

Performance and raditation shielding estimation of RANS by PHITS code



KUR次期中性子源WS 2013Jan18





Height of room: 3m Center of TMR: 1.25m from bottom Current design of Hazama concrete height: 2m

Neutron and photon distribution along line of 1m from ground and 2m from center to check radiation level





The design for shielding photon is enough



Neutron Distribution (Top View)





Neutron (µSv/h)



Z (cm)















低エネルギー核反応用ターゲットの開発

- Be(p,n)などの低エネルギー核反応用ターゲットの大きな課題は、水素脆化による によるターゲットの破壊(Blistering)である。
- 新たに、水素拡散性合金基材とBeを接合したターゲットを考案し、その性能をイオン注入シミュレーション(SRIM)、有限要素法による拡散シミュレーション、熱流体解析、構造力学解析を組み合わせた計算により推定した。
- 新しく考案されたターゲットは、長時間の寿命を持つと推測される。
- 試作品の試験は、京都大学物理学教室で進行中である。
- 理研ターゲットはV基材を利用して作製





陽子ビームによるターゲット破壊のメカニズム(左)と新型ターゲット

KUR次期中性子源WS 2013Jan18





Stopping power calculated by PSTAR and required thickness of Be target

Required thickness for 7 MeV input is 368 um

KUR次期中性子源WS 2013Jan18



Materials for hydrogen diffusible metal

	V	Nb	Та	Pd	Al	Cu
Hydrogen diffusion coefficient [m²/s] @25 °C	5*10 ⁻⁹	8*10 ⁻¹⁰	2*10 ⁻¹⁰	4*10 ⁻¹¹ 10 ⁻¹³		2*10 ⁻¹⁴
Hydrogen embrittlement limit [mol/m³]	3.5 x 10 ⁴ (H/V : 0.3)*	7.4 x 10 ³ (H/Nb 0.08)	-	-	-	-
Yield Strength [MPa]	80	110	180	34.5	30**	70***
Strength limit for design [Mpa] (Safety factor)	14.5 (5.5)	20 (5.5)	32.7 (5.5)	6.3 (5.5)	5.5(5.5)	12.7 (5.5)
Thermal conductivity [W·m ^{−1} ·K ^{−1}]	30.7	53.7	57.5	71.8	237	401
Melting point [°C]:	1910	2477	3017	1555	660	1084

*Brittle mode of pure vanadium: (approx.) H/V 0.3 @ 200 K

** Al1050-0

*** 99.9% Cu



Relatively good performance



Activation of metals by neutron

Element	Activated Product	Half-life		
V	⁵² V	3.7m		
Nb	⁹⁴ Nb	2x10 ⁴ a		
Та	¹⁸² Ta	115d		
Pd	¹⁰⁹ Pd, ¹⁰³ Pd,	13.7h, 16.9d,		
	^{103m} Rh	56.1m		
AI	²⁸ Al	2.2m		
Cu	⁶⁴ Cu, ⁶⁶ Cu	12.7h,5.1m		

Activated product of Vanadium has very short half-life, so maintenance of target can be conducted shortly after the operation halt.

Hydrogen and thermal energy distribution (vanadium case)



SRIM - The Stopping and Range of Ions in Matter: http://www.srim.org/





Chemical consideration by COMSOL multiphysics, where thickness of vanadium is 4.4 mm

Maximum concentration of H ion is approximately 1.7 mol/m³

KUR次期中性子源WS 2013Jan18



	V	Nb	Ta	Pd	Al	Cu
Maximum concentration of hydrogen ion [mol/m ³] @ 10kW	1.7	8.9	29	310	1.4*10 ⁵	5.7*10 ⁵
Hydrogen embrittlement limit [mol/m ³]	3.5 x 10 ⁴	7.4 x 10 ³	Unknown			

It is expected that hydrogen embrittlement on the target system may not occur since vanadium and niobium plate can diffuse H ions successfully to the coolant surface.



Actual Target Design



Cooling cavity, backing plate and beryllium target (decomposed in 3D CAD)



3D hydro-thermal analysis of cooling



Prototype of target plate (blazed)



建設の現状

- スケジュール概要
 - 2012年3月 陽子線ライナック納品
 - 2012年5~6月 ホウ素コンクリート壁、リフター装置設置
 - 2012年9月 陽子線ライナック組み立て・立ち上げ
 - 2012年11月 ターゲットステーション遮蔽体構築完了
 - 2012年12月 陽子線ビームライン完成 現在陽子ビームテスト
 - 2012年12月 中性子コミッショニング開始、施設検査受検
 - 2013年1月 施設検査合格、中性子ビームライン完成、お披露目見学会+研 究会開催予定























ビームモニターによる位置調整。



Beターゲット取り付け



Ti製冷却水キャビティ (下はPEモデレータ)



Beターゲット取り付け状態





KUR次期中性子源WS 2013Jan18



Reflector, neutron beamline



RANSでの 測定 開始

カメラボックスが間に合っていないので BPEブロックで蓋(遮蔽)して測定

RPMT 加速器 TMR(中性子発生) 熱中性子ビームライン

・12月末に施設検査が終了した
・ビームラインは完成していないが、
少しづつ中性子を出しながら
加速器パラメーターの調整や
放射線レベルの測定を行っている
・12月は真空ポンプの不調で苦戦、
1月になってポンプは安定した。

KUR次期中性子源WS 2013Jan18





RPMT検出器を用いたTOF測定

Beターゲットから約2.5mの位置にあり、熱中性子は約1msecで到達する。 TOFスペクトルで1msec(1000usec)のところにピークがあり、熱中性子が 飛んできている事を確認 制御卓付近の中性子を評価するために ホウ素コンクリ遮蔽体の上に検出器を置いて測定する

検出器:5インチRPMT+0.3ミリ厚Liガラスシンチ

PHA図を見るとガンマ線と中性子が分離可能 → 中性子だけ選択







→高速中性子に対する遮蔽が足りない可能性



高速中性子を用いた大型構造物の非破壊検査

全国に、15m以上の橋梁は15万橋あり、そのうち多く は、20年以内に設計寿命と言われている60年を経過 する。



理研理事長ファンドにて検出器の開発が進行中 小型中性子源の高速中性子成分を利用して実験を予定。



39

にも?



理研和光小型中性子源Phase-II

- ▶ 加速器:7MeV, 100uA, 出力0.7kW Q-magnet 付き
- 必要用力: 電力 40kVA, 冷却水: 75L/min
- RF電源:425MHz 350kW(peak) duty 8%
- 中性子発生量: 10¹²(n/sec)
- ・ ビームライン: 熱中性子x1(ラジオグラフィー)、冷中性子x2(小角散乱、パルス分光)
- 設置寸法:18mx11mx2.7m
- 遮蔽線量:1uSv/h(目標)
- 達成目標:2013年度末





Phase II layout 案







mf-SANS at JRR-3



Ellipsoidal mirror (0.9m) for mf-SANS

集光ミラーは、金属ベースのミラーを開発中

他にも冷中性子を利用した、 ・パルス分光イメージング ·粉末回折 ・干渉イメージング •検出器開発 などの実験を計画中

monochrometer

集光ミラーを用い、小型中性 子源にて小角散乱を行う。

鉄鋼材料、高分子、生体高分 子などの産業分野での利用を 期待



まとめ

- ・ 理研和光において小型陽子線ライナックを用いた中 性子源の建設が進行中。
- 小型中性子源のデザインに当たっては、KUR E-2 ポートのデータが大いに参考になった。
- ・ 産業界との連携を重点に置き、協力してアプリケーション開発を推進中。
- 本年度中に熱中性子線によるラジオグラフィーが実 現する見込み。
- 来年度以降に、冷中性子ビームラインを整備し、小 角散乱実験等の実現を計画中。
- 教育目的での活用も期待。



謝 辞

理研小型中性子源の構築にご協力いただいた全ての方々に謝意を表しま す。(敬称略)

- 理研小型中性子源の開発は、JCANSの協力の下、推進されています。
- ターゲット・モデレータシミュレーション:北大 鬼柳善明、加美山隆、木野幸一、
 平賀富士夫、東大 三島賢二、名古屋大 清水裕彦
- 小角散乱装置、ミラー開発:北大 古坂道弘、NIMS 大沼正人 京大炉 杉山 正明
- 京都大学物理学教室 小型中性子源 京大 永江知文、京大工 田崎誠司
- 京都大学原子炉実験所 中性子ラジオグラフィー: 京大炉 川端祐司、斉藤泰司、伊藤大介、北口雅暁、日野正裕 (共同利用研究 24P-7ほか)
- JRR-3 イメージング実験 JAEA供用利用 2009A-A35
- VCADシステム研究プログラム: 理研 牧野内昭武、横田秀夫, 世良俊博、須 長秀行、見原俊介
- 大型構造物の非破壊検査: 土木研究所 木村嘉富